

## 平成 25 年 3 月度県内産業景気動向調査結果

この調査結果は、中小企業庁の指定事業に基づいて設置された山口県内の情報連絡員 60 人に、本会が新たに選んだ 20 人を加えた 80 人の連絡員より業界動向を把握した結果です。

山口県内の「業界の景況（前年同月との比較）」は、悪いと感じている人が、2 月より減少している。パン・菓子製造業では円安で原材料が値上がり気味。窯業・土石製品では、関連する業種の廃業が相次いでいる。サービス業では、乗用車の平均車齢が 7.95 年となり、20 年連続で高齢化。建設業からは、東北震災と円安で資材確保に影響がでている等の報告である。全国的には、一部大手企業では好況との報道であるが、地方中小企業では、未だ実感が得られていない。

### 山口県の主要指標 DI 値（平成 25 年 3 月末現在）

※DI 値とは、前年同期に比べ「増加」・「好転」したとする企業割合から「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値です。

業界の景況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、好転：5.0% 悪化：35.0% DI 値：▲30.0% ポイント

売上高（〈増加〉－〈減少〉＝〈DI 値〉）

前年同月比は、増加：13.8% 減少：38.8% DI 値：▲25.0% ポイント






収益状況（〈好転〉－〈悪化〉＝〈DI 値〉）


前年同月比は、好転：3.8% 悪化：42.5% DI 値：▲38.7% ポイント

### 山口県の業種別 DI 値(業界の景況)（平成 25 年 3 月末現在）

 30 以上	 30 未満～ 10 以上	 10 未満～ ▲10 以上	 ▲10 未満～ ▲29 以上	 ▲30 以下
--	--	---	--	---

食料品	繊維工業	木材・木製品	印刷	窯業・土石製品	一般機器	輸送機器	全製造業
▲33.3	0.0	▲33.3	▲100.0	▲33.3	0.0	▲50.0	▲25.0
							

卸売業	小売業	商店街	サービス業	建設業	運輸業	全非製造業
▲20.0	▲55.6	▲75.0	▲15.4	▲10.0	▲57.1	▲33.3
						

全体
▲30.0


## 特記事項（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）

食料品	菓子製造販売に好況感がでるのは、まだ先になりそうである。円安で原料も上昇気味。	パン・菓子製造業
	2月は売上+13.2%と対前年同月比で大幅アップ。3月も速報値で+3.4%と対前年同月をクリア。2月～3月は例年に比べ降雪が少なく、海況も比較的安定していたことが要因。またNHK・TV東京などの全国番組放送や新聞雑誌での記事掲載でPRの機会も非常に多かった。4月以降も、日経MJ・日経ビジネスなど有力経済誌紙で道の駅／萩しーまーとの取り組みが紹介される予定。	水産食料品製造業 萩市
	急激な円安により食品材料の値上げが予測される。原料も不足気味で、仕入コスト上昇となっており、先行きが不安である。	水産食料品製造業 下関市
繊維工業	テント組合では、景気の回復は、表れていない。	帆布製品製造業
	受注状況は引き続き低調。一般的には回復傾向と言われているが、まだその状況になく、状況は先月と変化はなし。シーズン替わりのため、一部で新商品の投入をした。海外は特に中国生産が不採算となり、価格転嫁できないものは縮小と中止をしている。	下着類製造業
	先の見通しは明るいとの共通認識は持って来たが、実態としては、感じられない。	外衣・シャツ製造業 山口市
	受注状況は好調である。	外衣・シャツ製造業 下関市
木材・木製品	新設住宅着工数は微減。木材価格は、対前年同月比で▲10%となり、そのため製材工場への出荷量も微減となった。	製材業・木製品製造業 山口市
	燃料等の高騰分を価格に転嫁できず、一層厳しくなっている。	製材業・木製品製造業 下関市
印刷	3月の駆け込み需要等も減り、需要の絶対量が減少している。このため受注価格の下落も進み、利益が出ない。収益状況の良い会社と悪い会社の二極化が進んでいる。	印刷 下関市
	年度末には、そこそこの仕事はあったものの、昨年と比べるとかなり仕事量が減り、繁忙期が短かったように思われる。新年度早々、主材料である紙代が値上がりするとのことであるが、なかなか印刷代に転嫁できないので、新たな厳しい局面を迎えそうである。	印刷 山口市

窯業・土石製品	対前年同月比は、骨材117%、路盤材87%、再生材113%、全体では107%。前年度に比べて出荷数量は増えているが、長い間、碎石単価が上がらないため、売り上げは低いまま。オーナー会議でも、県に対して「値上げの交渉を。。。」と言う話が出るが、中々単価を上げてもらえないのが現状。入札価格も低いため、補修工事のみの発注量では、思ったような売上も見込めず、オーナーは、景気自体が今から更に悪化すると懸念している。	碎石製造業
	出荷量は、前月比108%、前年同月比は106%といずれも増。本年度出荷量は、昨年度並み以上に推移する見通しにあるものの、次年度以降も継続するか否か不透明。現時点では、セメント・骨材等の資材調達は、特に問題は生じていないが、セメントメーカーが相次いで新年度以降の値上げを発表しており、今後、原材料費が高騰する懸念がある。	生コンクリート製造業
	土建業の廃業が相次ぎ、上工事だけが仕事であったのが、基礎工事をも実施するようになった。その為に売上高が増加している。しかし、生コン工場も閉鎖が相次ぎ、建設業界の下請けピラミッドが崩れている。業界のこれからの発展が危惧される。	石工品製造業
一般機器	円安や株高等景気指数は上昇傾向にあるが、アベノミクス効果が地方に波及するにはまだまだ時間がかかると思う。景気上昇の実感としてはまだない。	一般機械器具製造業 周南市
	2月に引続き、アベノミクスの政策に対して心理的な働きが先行しており、現在のところ格別な動きは無い。東北の復興需要（コンクリート機械設計）を抱えている事業所もあって、組合員内部で収益にバラツキがある。大型構造物については、関東を中心に引き合いが出ているが、受注に結び付くのは、6・7月以降になる見込み。雇用については、増加傾向にある。	一般機械器具製造業 防府市
	親会社の決算期でもあり、先月よりは生産量が上がった。しかし、まだまだ経済の先行きは不安。	一般機械器具製造業 宇部市
	前月と同推移。	
金型製造関係の生産状況は、今年に入りリピート金型が多い為、3月の設備操業度は向上した。4月以降の受注については、大物金型の受注もあり、現状で6月までの仕事の確保は出来ている、但し、受注の隙間を埋めるように取り込みを継続して行かなければならない。見積り案件は多く入るが、価格、納期面で非常に厳しい状況で、特に大阪関西地区では価格破壊が起きている。今年に入り、自動車メカ	特殊産業用機械製造業	

	<p>一が業績を上げており、この分野へ働きかけを強め仕事の取り込みを行わなければならない。しかしながら、成形機業界も非常に厳しい状況で、中国、台湾、韓国と価格面で負けているのが現状。成形製品の動向としては、自動車関係、民生部品関係の受注が減少したまま推移しており、先行きが不透明な状況が続くように思う。</p>	
輸送機器	<p>車両輸送部門は低迷の状況が当分続く見込みで、明るさが見えない。精密加工は短納期品の受注で春先まで作業量に恵まれているが、その先は不透明な状況。</p>	鉄道車両・同部品製造業
卸売業	<p>メディアの発表では、円安・株高により一部大手企業では好況となり、賞与増が報じられているが、我々、中小の卸・小売業界では、まだ何の影響も見られない。</p>	各種商品卸売業 柳井市
	<p>各業種とも、売上高、利益とも低調で厳しい状況で推移している。原油価格はやや低下傾向にある。業種格差は有るものの全般的には、収益面は特に厳しいが、売上高はやや回復基調にある。</p>	各種商品卸売業 周南市
	<p>金融緩和の影響は、当組合のような中小企業にまで波及するには、時間がかかりそうである。</p>	各種商品卸売業 防府市
	<p>円安に伴い、仕入れ価格の上昇が懸念される。特に燃料価格の高騰は続いている。</p>	各種商品卸売業 山口市
	<p>ガソリン価格が約5円程度、値下がりしており経費削減となっている。建築関係卸については工事が減少しており出荷減となっている。今後の見通しは立たない状況で苦慮している。</p>	各種商品卸売業 下関市
小売業	<p>化粧品業界も3月決算のメーカーが多く、仕入れの依頼が多いが、各店舗ともあまり無理が出来ない様子。専門店も今後の経営の柱を何にするべきか、模索している。</p>	化粧品小売業
	<p>3月は移動時期で、商品は、買取が若干増加したように感じる。貴金属は高値で推移している。</p>	中古品小売業
	<p>アベノミクスによる景況感は全く地方では感じられない。前年度同月比よりも微減の取扱高で推移している。</p>	各種商品小売業 山口市
	<p>売上、客数共に前年を下回り厳しい状況が続いている。</p>	各種商品小売業 長門市
商店街	<p>3月半ば及び末で2店舗が撤退する。昭和の時代と同じく空き店舗対策で物販・飲食店を勧誘し対策とすることは、地主には受け入れられるが、時代の変った今となっては無駄である。開店しても撤退して</p>	山口市

	も、残る既存店は更に苦しい状況となる。	
	来街者は、昨年同月より相当減ってきている。メディア等では、景気が上向きとの文字が誌面を賑やかしているが、萩では輸出企業が少ないのでなかなかアベノミクス効果がなく、賃金UPもない。高齢化率も人口の36%を占め、県下の市の中でも最も進んでいるようす。人口も1年間で1,000人近く減り、5年先、10年先が思いやられる。	萩市
サービス業	3月は卒業等の人の動きが有り、割に売上のある月であるが、まだまだ消費者の財布の紐が固く、昨年の3月と比べると売上は微減している。	美容業
	どの業種も組合離れが続いているが、中央会では会員数が増えていると聞き心強い。	理容業
	乗用車の平均車齢（人間の平均年齢に該当）が7.95年となり、20年連続で高齢化するとともに最高齢となっている。高度な電子制御がされた新型車が増加する一方で10年以上使用された長期使用車両も増加しており、安全確保の為に、点検整備が怠りがちになる古い車への対応が今後ますます重要になる。	自動車整備業
	3月は期末でもあり、少し売上が上向いた。新年度に入る4月からは、更に上向いてほしい。	
	相変わらず先月と同じ状況。収益は低いまま。コンサルタント的に動き、お客様への提案を中心にビジネスモデルの変革をしているが、まだ成果があがっていない。首都圏からの案件を当面は獲得していくような方向である。	情報サービス業 宇部市
	農業関係の「温度管理システム」の試験運用が順調に稼働しているが、鳥インフルエンザの影響が心配。食事会場にネットワークカメラを設置、食事の進み具合等を把握して、サービス向上のためシステムの導入を支援。サービスを向上させて売上に結びつくITの導入は有効な手段だと思われる。	情報サービス業 萩市
	年度末の需要増加に期待していたが、あまり変化が無い。	屋外広告業
	特徴のある宿は対前年同月比で客数増も見られたが、それ以外の一般の宿は苦戦をした。またも組合員の一社が3月末で休業（廃業に近い休業）となる。	旅館業 萩市
	政治の影響か、2月に続き良い兆しがあった。総じて観光客が動き出し、購買意欲も出てきており、買う商品もやや高めの商品を選ぶ傾向が出て来ている。この良い兆しが、いつまで続くのか、まだ予断を許せないなので、飛躍的に良い状況にはならない。先の景気の前予想がしにくい状況が続いている為か、	旅館業 下関市

	<p>生活防衛の為にやや用心を引き続きしている影響か、どちらか読み取れないが、相変わらず、直前予約が多い。宿泊業を休業・廃業をする施設が山口県内及び下関地区でもあるが、耐震についても厳しい現実があり、苦慮する施設が今後も増えると思われる。</p>	
	<p>ジワジワと食材の値上げの動きが顕著化してきており、デフレ脱却への二極化が進んでいる。大量仕入による大手業者の価格攻勢は零細企業にとってはより深刻になっており、単価アップが図れる企業と、そうでない企業の二極化の幅が広がっている。また、時代のニーズに対応した店舗では店舗改装などの設備投資が増加傾向にある。3月は景気回復ムードが送別会の予約状況に反映したという報告もあり、早めの桜の開花と相まって、予想以上の賑わいもあったようです。また、4月の歓迎会の予約も例年以上であるとの報告もある。</p> <p>ムードだけが先行し、大企業や輸出業には良いけれど飲食業には商品に転嫁できるかのデフレ脱却のタイムラグがついてまわる。燃料費ガソリンは高値で安定化しており、何処まで経営を圧迫してくるかが問題。</p>	飲食業
建設業	<p>ここに来て、営業力のある会社と、そうでない会社の差が出てきている。また、材料その他の値上げが聞かれる。公共工事の前倒し発注に期待を持つ。</p>	鉄骨工事業
	<p>中電への工事申請2月277件（当支部分223件）、前年同月301件（同229件）。太陽光発電への申請107件、オール電化申請58件（前年は太陽光24件、オール電化33件）。LED街路灯への切替・新設申請は34件（前年は26件）。再生エネルギー買取の優遇期限3月31日まで、太陽光発電申請は先月2月分40件から大幅増加。受注状況は順調な様子。</p>	電気工事業
	<p>公共事業費の発注は少しずつ増加しているが、期待ほど多くは無く、来年度予算に期待している。東北震災と円安の影響で、コンクリート、鉄材等の材料費、臨時的な人件費が上昇しており、一部の企業では、資材の確保に支障が出ている。</p>	土木工事業 柳井市
	<p>我が地域は、3月分公共工事が0円であった。昨年3月も0円であったので、売上高は「不変」としている。いつになったらアベノミクスの恩恵があるのだろうか。</p>	土木工事業 周南市
	<p>25年3月の受注高は、対前年同月比36%。今年度の累計は、対前年比88%。</p>	土木工事業 萩市

運輸業	<p>輸送関係は出荷調整による国内輸送業の減。鉄鋼業材等の輸出は横ばいの傾向にあり、前年対比約45%のマイナス。円高による油価格の高騰は輸送運賃の据え置きのままの現状に運送業者、特に中小業者にとっては圧迫の度を一層高くして来ている。大企業・中小企業共に「円安の価値ある情勢」となることを切に願う。油関係=4.6円の値上げ。</p>	一般貨物自動車運送業 下松市
	<p>3月の輸送稼働は平年並みであり、燃料価格も先月比では若干値を下げた。しかしながら、燃料価格は政権交代以降、リッター10円程度、率にして、10%強の上昇である。産業界の復調の兆しも、輸送業者にとっては、燃料費の上昇が先行するのみである。</p>	一般貨物自動車運送業 防府市
	<p>期末の3月は運送業界においても繁忙期であり、特に製造業界の「前倒し」出荷などの影響もあって、荷物量は確保できている。むしろ状況によっては荷物がオーバーフローし車両不足に陥る場合も見受けられる。軽油の値上がりがじわじわと続いており、収益に影響を与えている。</p>	一般貨物自動車運送業 宇部市
	<p>政治の変化改革に目まぐるしいものを感じる。大企業にとっては良い事が次々に起こるが、我々小企業者にとっては、燃料の値上がり、仕事量も減り、収益が上がらない。当組合の軽油価格は10:120円であるが、先は解らず、決算期に際し、暗い気持ちである。</p>	一般貨物自動車運送業 下関市
	<p>タクシーチケットの取扱い金額は、前年同月比▲12.9%（平成25年2月1日～3月20日分）となり、6月以降の大幅な減少に歯止めがかからないでいる。2月1日～28日分は昨年と同年より日数が減った事も有りますが▲15.4%、3月1日～20日分は▲9.0%と少し減少幅が少なくなりましたが、まだまだ大幅な減少が続いている。当組合の取扱いは、光市、下松市、周南市、防府市の地域ですが、特定の地域や得意先ではなく全体的に、利用枚数が大幅に低下、加えて利用単価も減少している状況。日中の病院通い等、現金利用客の減少はそれほどではないが、コンビナートの大企業や夜間の飲食店関係が激減しており、タクシー事業者も、歩合給で働く乗務員も、非常に厳しい状況におかれている。燃料のLPGについては、CP（通告価格）と為替に連動して変動。CPは前年以下に下降したが、為替が円安になっているため、2月のタクシー会社の購入単価は前年同月比+10%となり、タクシー会社の負担がますます増加する事になる。</p>	一般旅客自動車運送業

	円安と株価上昇で自動車産業等、輸出関連産業では景気が回復しているようだが、地方の個人消費は一向に回復しているように思われない。	
	相変わらず、低位水準での「不変」です。	港湾運送業